

ヤマハニュース

YAMAHA NEWS NO.99

'71 **9** SEP.

すぐに役立つ 免許教室スライド完成



9月の カレンダー

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
二百十日 関東大震災記念日				台風もおそろしいで すが、予知できるの でまだ防備できます 本当にこわいのは地 震。ふだんからの心 構えが大切です						二百二十日				敬老の日
16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
					彼岸の入り			秋分の日			彼岸明け			

山に、海に

楽しかった夏の休暇も終わり

仕事もなにかと忙がしさを増してきた
きょうこの頃です

お客さまの車の健康状態は

いかがなものでしょうか

夏をフルに走った方も多いでしょ

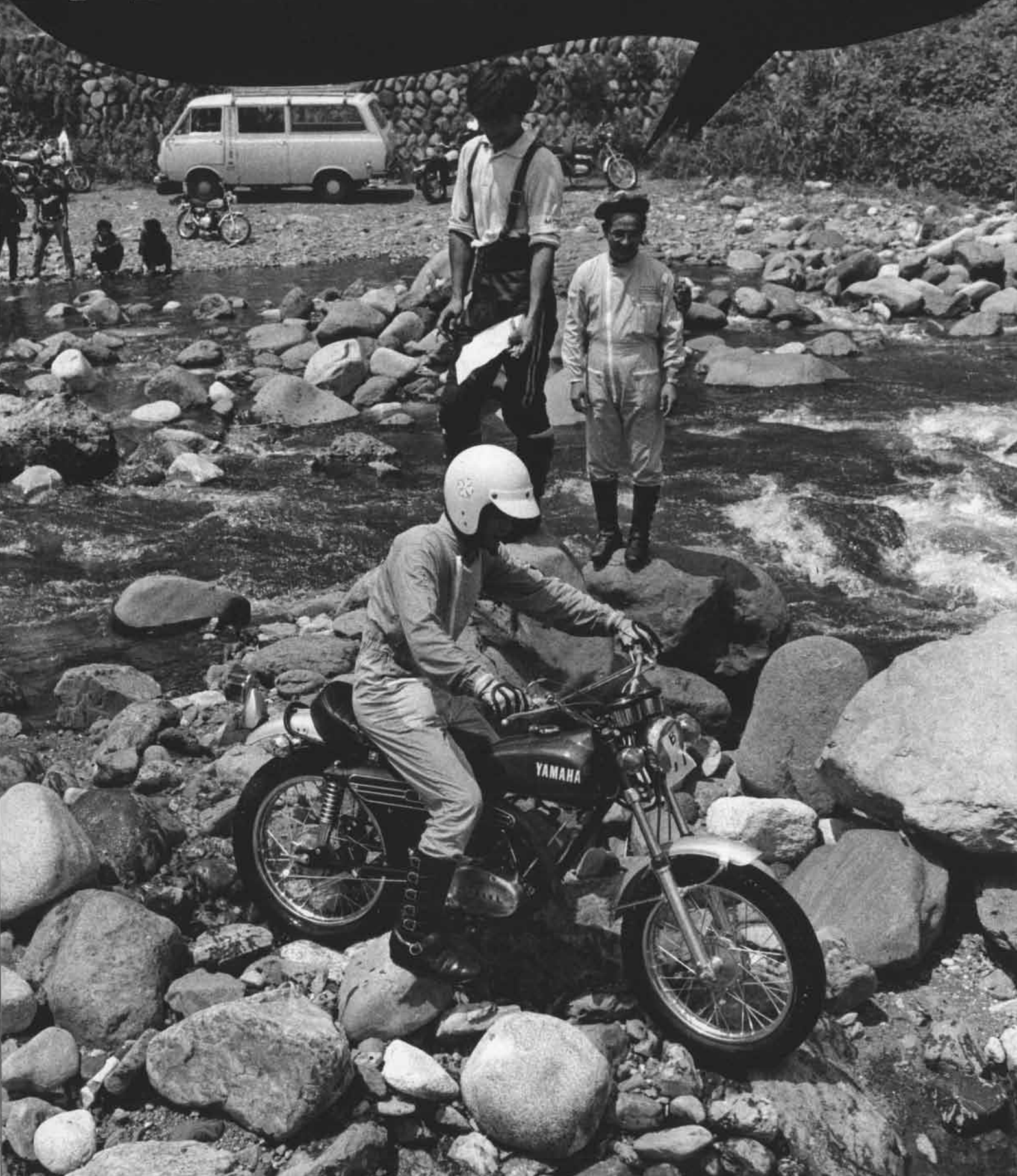
休日を選んで

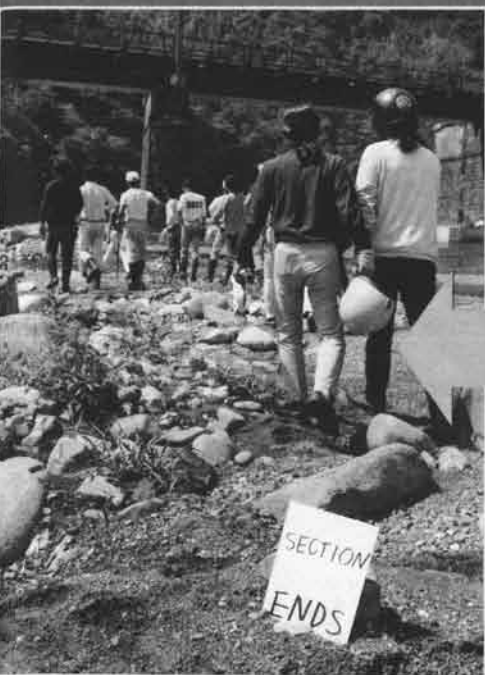
定期点検サービスを呼びかけましょ



お客さまとの楽しい一日をつくろう★★★★★★★★★

トライアルをトライしてみませんか





これがセクションのエンド。監視区域は長くても20メートルぐらいだが、その難関よりは相当なもの……。



コースの説明。ここが第2セクションのはじまりで、この表示の中に前輪を入れたときから操縦技術が監視される……。



先行車がトライアルされているときは、いったん待機。車を休めて、心を静めて……と。

ジムカーナやラリーをはじめ、トレールラン、オートキャンピングなど、新しいモータースポーツが若いお客さまの間で人気をあつめています。

ロードレースやモトクロスとはまた別の楽しさがあるこれらのモータースポーツは、車にとくべつな改造を加えることなく、

誰れもが、どこでも、手軽に楽しめることで、まさにスポーツレジャーにはピッタリ。

この夏も、全国各地のS・Lクラブやスポーツクラブで各種のモータースポーツが行なわれ、お店とお客さまが一体となつての楽しい姿があちこちで見受けられました。

ここでは、若い人はもとより、四ツ輪に転向していったかつてのお客さま、三十代、四十代のお客さまにも存分に楽しんでいただける、そしてオートバイの魅力を再発見してもらえるトライアルとラリーをご紹介します。

あなたのお店でも、一度こころみられたらいかがでしょうか。

(写真はMCF AJ主催「第3回ナショナルトライアル」より)

トライアル(ゴロ)とは、文字どおり「試す」という意味で、変化に富んだ難コースで操縦技術を試すのがトライアル競技です。

コースは岩や石だらけの凹凸道や、ぬかるみ、水溜り、砂地、斜面など、ちよつと考えられないような地形が選ばれ、ここで操縦性の信頼度が試されるというわけです。

トライアルをモトクロスと共通なものと考えている人もいるようですが、競技の内容はまったく異質のものです。モトクロスがスピードで勝敗を決めるのに対し、トライアルは操縦技術が重点で、いかに上手に乗りこなすかで順位が決められるものだからです。

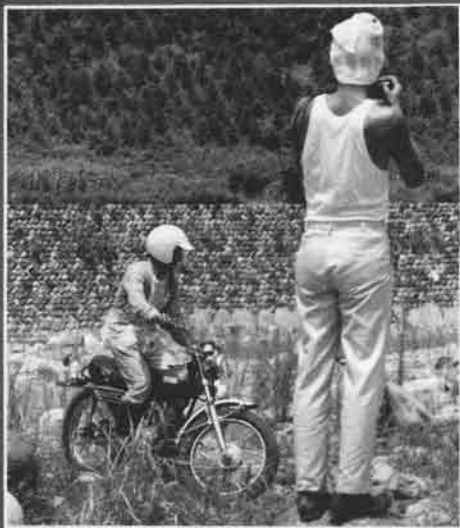
たとえば、こんな具合です。

コース・ミス 減点10

エンジン・ストップ 減点5

足つき 一回は減点1 二回以上減点3

等々……です。



こんどはどっちだ、右か、左か。車との苦闘でコースも見失ないがち。減点10はイタイゼ。



どうやら無事に脱出。ホッと一息ってな感じ……。



さあ、いよいよスタートだ。な・ん・ど・ま
あ・デ・コ・ボ・コ・そら、ヨット……。

そしてこれらの採点はスタートからゴールまでつづけられるものではなく、採点される場所すなわちトライアル・セクションがあつて、その監視区域外は対象外です。

この監視区域には監視員がいて、ひとりひとりのライダーの操縦技術を採点します。したがってスタートは一台ずつとなり、先行車が監視区域にあるときは停車して、その通過を待ち、必ず監視員のスタート指示をうけてから競技に入ります。

車はもちろんトレール型となります。スピードはまったく無視してよいのですから、エンジンはスタンダードで充分。むしろ性能をおとしてもよいくらいで、そのかわり後輪スプロケットを特大とし、わずかなアクセル操作で車がトコトコと出るくらいにトルクを増してやるくらいの工作は必要となります。

この点で、7ポート+リードバルブ（トルクインダクション）のついたニュー・トレールは最適です。

いまトライアルを積極的に広めているのはMCFAJ（全日本モーターサイクルクラブ連盟）だけですが、とにかく非常に面白く、安全で、きわめて有意義な競技であり、かつてはオトキチなどといわれていた古いお客さまを再びお店のお客さまにみちびく格好な競技としておすすめできるものです。



再び水に入って、どうやらセクション通過



▲シャバ、シャバ、シャバと水に入ったまではよかったが……。



◀こんなところを走らせるなんて、なんとまあコクなこと、片足ついて減点！もやむなし。



▼急坂を右に、左によじ登る。腰をあげて……の叱声も飛ばさば、家族ぐるみの応援もあって楽しい一日。



▲午前中の10セクションは河原、午後からの10セクションは山の中。やはりこちらのほうがだんぜん乗りやすそう。



◀よし、これなら……と、ミニで出場する人もあったりで、まさにVIVA・トライアルでした。

お客さまとの楽しい一日をつくろう★★★★★
だれもが気軽に参加できる

ラリー



← 早朝6時半、出発の注意を60名の中からは、速く甲府から夜半の猛烈的な雨の中を駆けつめたお客さまもあつた。

とくべつな車を必要とせず、だれもが楽しく参加できる競技として、ラリーもまた大いにすすめられるものです。



ラリー (Rally) については、ヤマハスポーツ教室マニュアルもつくられているのでご存知の方も多く、また古くから行なわれているので、実際に経験された方も少なくないと思いますが、要は、刻々と変化する一般の交通の流れに対処しながら、チェックポイント区間をいかに指定速度で走りきるかが問題となる競技です。

ただし、チェックポイントがおかれた場所は参加者にかくされていますので、スタート後何キロで第一チェックポイントが出るのかわかりませんし、チェックポイントがいくつあるのかも知らされていないのです。

明示されるのはゴールまでの道順だけですから、ラリーは一種の頭脳プレーでもあるわけで、ここにまたほかの競技にない面白さがあじわえるわけです。

もちろん車はふだんのままでOK。そして

コースは一般の公道で、交通ルールを守っての競技です。したがって信号待ちもあれば、一時停止もあるわけで、指定速度は実際に規制されている速度よりも遅い速度となることはいうまでもありません。

写真は、ヤマハスポーツ教室の一環として七月十八日に行なわれた多摩ラリーで、チャンピオンシリーズの第二戦。今年はおと一戦が行なわれますが、いつも、東京をはじめ関東一円からラリーファンがあつまり、ラリーに対する人気の程を示している——とは主催の多摩ラリークラブの言葉です。

この日の競技は府中競馬場をスタート地点として青梅市経由、高尾山口まで一二〇キロのコース。前夜の大雨で、山道のコースは荒れていましたが、成績はなんとヤマハミニが優勝、ヤマハミニミニクラブの山崎敏雄さん(減点一)はご機嫌の一日でした。

▼ よーし、やったぞ！ 装備も乗り手もいかに堂々としたヤマハミニ。





▲奥多摩の森をゆくニュートレールRT360。深閑としたあたりに心地よい排気音が響きわたる。

森の中の曲り角、ふいに現われる▶チェックポイント。思わず深呼吸したくなるようなうまい空気がただよう。

▼先月号でも紹介されたヤマハミニミニクラブの山崎さんは減点1で見事優勝。大喝采をあげた。



▶スタートする頃には雨もあがり、絶好のラリー日和となった。



安全運転指導普及に全面協力 まるヤマハ交通安全教室



▲安全運転の基本は正しい乗車姿勢から……

原付、二輪の免許教室をはじめ、正しい乗り方講習会、トレーラー教室、スポーツ教室など、幅広い活動で注目をあつめていたヤマハ交通安全教室ですが、このほど相次いで高等学校などから安全運転の指導普及の依頼があり、ヤマハ交通安全教室の働きは社会的にも大きな反響をよんでいます。

高校生のオートバイに対するあこがれはつよく、大半の人が免許取得者といわれていますが、こうした実情を背景に、オートバイの乗車を一方的に禁じるよりもむしろ安全運転の指導普及に努めるのが本筋——との考え方が広まり、このところ高校の先生方や生徒を対象に、安全運転の実技指導が各地で行なわれています。

そして、ここで活躍しているのがヤマハ交通安全教室です。

静岡県浜松工業高校といえば、早くから

●高校生の 評価高



▶Sカーブや登坂・降坂路はもとより、砂利道、凸凹道まである浜松工業高校のコース

▼個々の指導にインストラクターは大わらわ



交通安全の教育に力を入れていた学校として全国的に知られていますが、さきごろ同校ご自慢の練習コースに初心者五十余名の生徒を対象として、ヤマハ交通安全教室による安全運転の実技指導が行なわれれば、同じく磐田市の磐田農業高校では八十人の生徒が参加して、オートバイ・メカニズムの解説、正しい取扱い方を講習、ついで正しい乗り方を実技指導して大きな成果をあげました。

いっぽう宮城県村田高校では、一年生一三年生二五〇余名をあつめて安全教室を実施しています。

机上講習Ⅱ二輪車の安全運転について

実技指導Ⅱ服装チェック、車両点検、基本

乗車姿勢、ブレーキキング・テク

ニック、悪路走行テクニック、

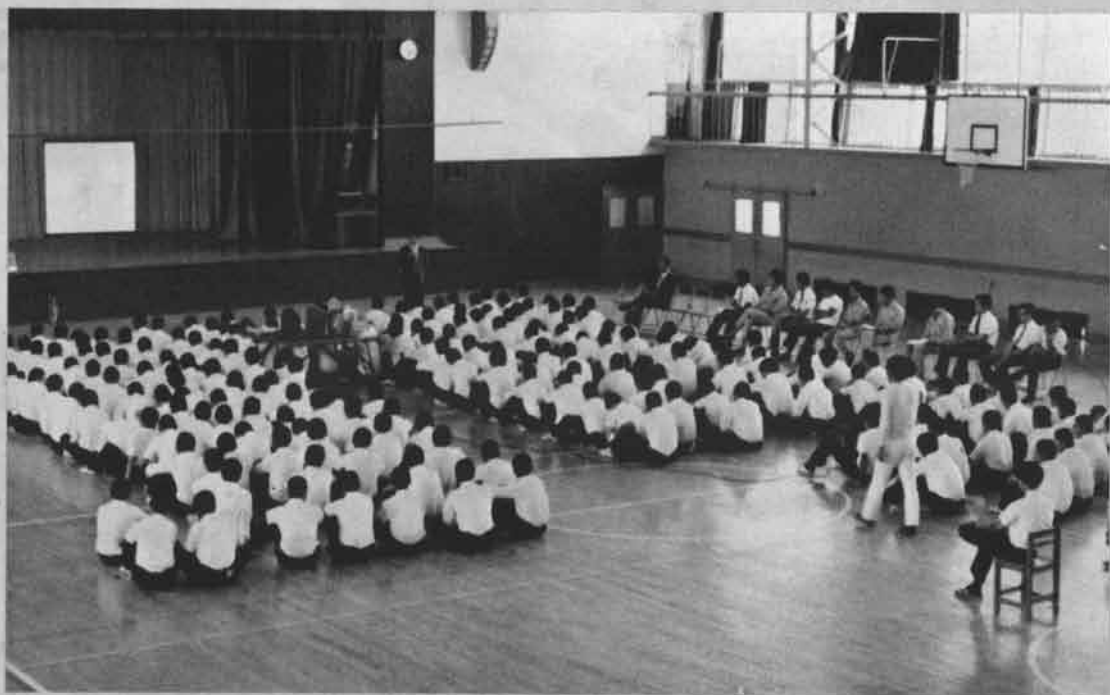
コーナリング・テクニック……

が、その内容ですが、ヤマハ交通安全教室より派遣された一級インストラクターの適切な指導は評判もよく、地元紙・河北新報も本当にカッコいいのは正しく車を乗りこなすライダー——と、村田高校の安全教室を報道したものでした。

また福島県では県教育委員会、県警本部、県交通安全協会が主催して行なわれた自動二輪安全運転指導者講習会に協力しています。

参加者は高校の先生方を主体に、これに電々公社、一般の方など約四十名で、日頃は安

▼講堂に全員集合して文字どおりの座学もあれば、スライドや映画も積極的に利用……



▼テキストを配って安全の大切さを説く
(宮城県村田高校)



▼視線を一身にあつめてのブレーキングを実技させる



全運転の指導役をつとめている方々も、一転した立場で熱心の実技講習をうけている姿が印象的でした。

「学校によっては、生徒のオートバイ通学を認めていないところもありますが、時流に抗して一方的に禁ずるよりも、むしろこうした安全運転の指導教育に力を入れたほうが現実的であり、より大きな成果があげられるのではないかと」
とは、参加されたある先生のお話ですが、お店でも、どうぞ機会あるごとにヤマハ交通安全教室のご利用をおすすめします。





▲インストラクターのゼッケンをつけて、ふだんはコワイ白バイさんが立役者

▼ニーグリップの効用に注意を喚起させたり……



◀さすがの先生も、緊張しすぎかふだんの実力が出不いようす(自動二輪安全運転指導者講習会)



足で集めた東京の二輪車界の話題です。
時代を先取りしている東京の状況をすばやくキャッチし、お店でのお客さま対策も、先手先手をとってください。

個性やファイリングが尊重される時代です。オートバイも例外ではありません。若者は単に用途や好み合った車だけでは満足せず、自分だけの個性をつよく主張しようとしています。

では、こうした傾向の中で、販売店は車を売るだけに専念してよいのでしょうか？ 積極的に個性を主張する若いお客さまにもっと働きかける何かがあるのでは？——というわけで、オートバイの用品について今月は考えてみました。

ファイリングを楽しむ若者にオートバイ・プラス・ファイリング用品を——

まず、都内でも一―二の販売実績を誇る中西モーターズさん（中西一成社長）江東区亀戸三―四〇―四）の例をご紹介します。

中西さんは、奥さんと二人で年間三百台をこなす実力店ですが、「これ以上販売台数を伸ばすとなれば用品部を設けることだ」と販売店で用品取扱いの必要性を強調しています。

つまり、用品部を設け、車だけでなくそれに関係する用品や部品を販売することによって、一般客も気楽に出入りするお店になり、そこから新規需要の生まれる糸口がつかめるというわけです。

中西さんは、この春に新しいお店を開設し

ていますが、新車だけの展示で店内はいっぱい。しかし、ディスプレイを工夫して、用品類を置けるようにと、もっか、用品部開設の構想を着々と進めています。

「とくに、最近の若いユーザーは流行には敏感で、これに比べられない販売店は新しい時代から取残されていってしまうだろう。この意味からも、用品部を設けることは絶対必要だよ」と語る中西さん。

たしかに、若いユーザーは流行に鋭い反応をみせ、それを追うものです。当然オートバイに関しても、カラフルでメカニカルなオートバイに合った装身具や用品類を身につけたくなるものでしょう。

こうしたことから、用品類を扱うメーカーはもちろん、ヤマハをはじめ各メーカーも販売促進のためさまざまな用品を提供するようになっていきます。

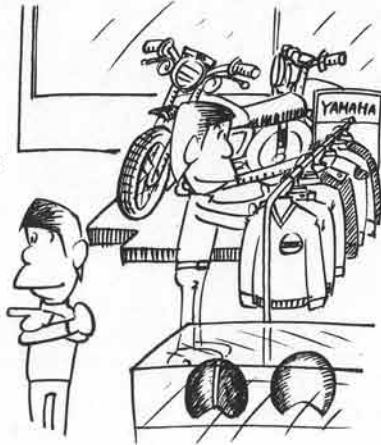
こうした状況から、お店での用品販売は、もはや必要かつ重要な販売策といえるでしょう。中西さんも、「毎日が販売に追われ、用品部どころではないのだが、こうした需要動向に積極的に対処していくことが、大型販売店へ成長する一つのカギとなるのではなからうか」とハリキッテいます。

「もちろん用品類を置く以上、おざなりでなく豊富に取揃えることが大切で、これによっても客足はかなり違ってくるでしょう。当初から用品で利益を上げることが無理でしょうが、徐々に品物も揃えていけば、かなりイ

けるのでは……」とも語ってくれました。

お店を彩り、需要も多い用品類

いっぽう台東区の戸塚商会さん（戸塚幸雄社長）は、漸新なディスプレイで若いお客さ



展示するだけでなく、用品類をフルに活用し、特にヤングライダーの好みを考え、ヤマハヤングルックなど、ライダーの装備用品類で店内もヤングイメージにディスプレイし、大きな成果を上げています。

「うちは若いユーザーが6割以上を占めています。クラブもありますので、若いユーザー同士の紹介販売が多くなっています。このひとつには、仲間同士が店に集まることの楽しさもあるんでしょうね。そのためには、用品類を利用した店内装飾は欠かせない要素だと考えています」

「また最近では、ヤマハヤングルックなど各種装備用品類の需要が急増しています。そこで、用品類を本格的に販売することも商売のポイントになると考えています。とにかくお客さまがいま求めているものは何か？ を見抜くことがまず第一であり、それに遅れないよう努力しなくてはダメでしょう」とはお店とともに新たなファイトに燃える戸塚さんの弁です。

中西モーターズさん、戸塚商会さんの例をみても明らかなように、現在の販売戦線の中で用品類の占める要素がいかに重要なポイントになってきているか、改めて考えさせられるものがあるでしょう。

もちろん、お店自身がユーザーの要求に絶えず目をひからせ、それを見抜く努力がなければならぬことはいうまでもありません。



《お役に立ちます》 免許教室用スライド完成



いつでもどこでも
ヤマハ運転免許教室が開けます

ヤマハ運転免許教室が、いつでもどこでも気軽に開ける「免許教室用スライド」が出来ました。

たとえ受講希望者が二人が二人でも、このスライドを使えば、立派に免許教室が開けます。インストラクターもいりません。あなたのお店を会場に、お客さまが集まり次第、免許教室を開いてあげてください。

どんどんご利用ください

「こんど完成したのは『やさしい交通法規編』です。美しい画面と、録音テープによる解説とで、わかりやすく構成されています。

これから原付免許を取ろうという人には、勉強を始めるきっかけとなります。

テキストをあわせて使用することが、合格への近道です。

このスライドは、すでに運転免許を持っている人の復習にも役立ちます。

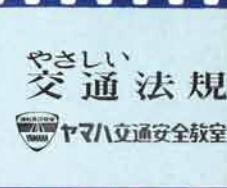
どしどしご利用ください。

ご利用のお申込みはヤマハ運転免許教室センター（ヤマハ特約店・販売会社・営業所内）へどうぞ。

やさしい 交通法規



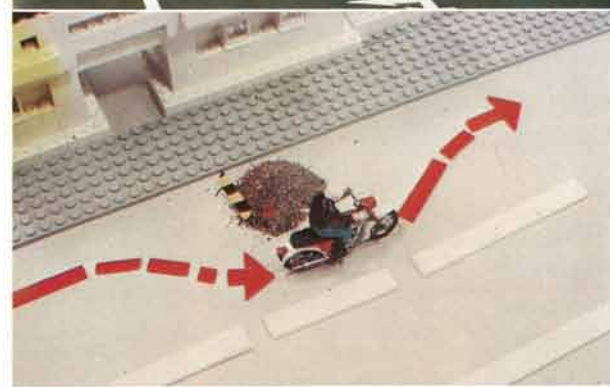
ヤマハ交通安全教室



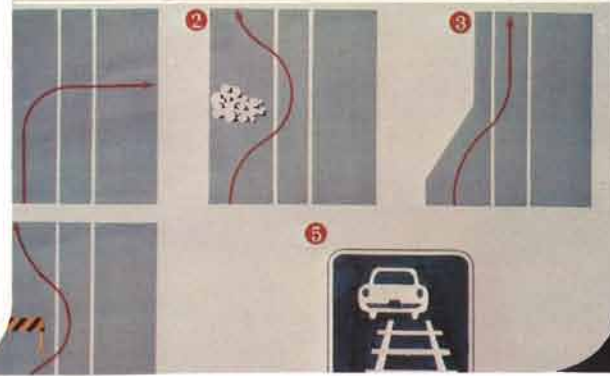
歩行者は歩道を車両は車道を...



道路標示を見てください。キープレーンです。



道路の左側に寄って通行するのが原則ですが...



どんなときも、軌道敷内を通行できますか



道交法の目的は、道路での危険を防止し、交通の安全と円滑を図ること。



①は大型自動車②は普通自動車③は...



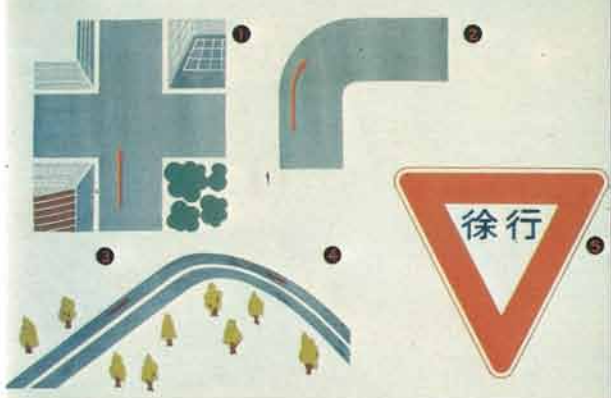
自動車とは、原動機を用い、レールや架線によらないで...

	大型乗用自動車	毎時60キロメートル
	普通自動車	
	総排気量250ccをこえる自動二輪車	

いくら腕がよくても、最高速度を守りましょうね。



「キツスしないで！」—車間距離を守りましょう。



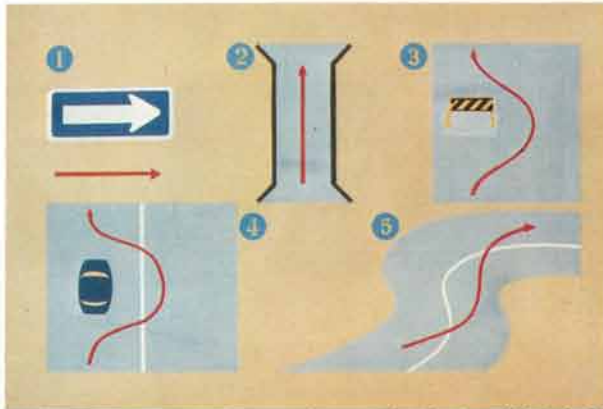
徐行をしなければならぬ場所はどこでしょう。



赤信号でとび出していくのは闘牛場の牛だけ。



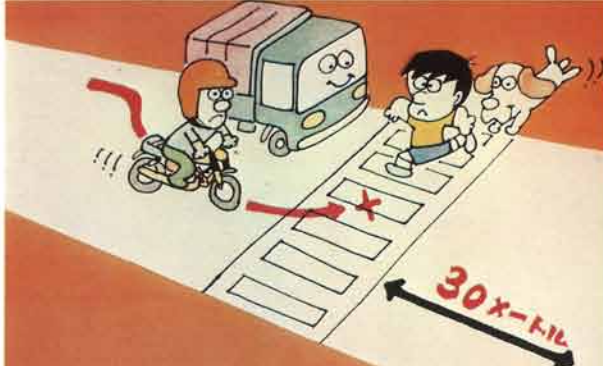
路面電車の乗客が乗降りしているときは...



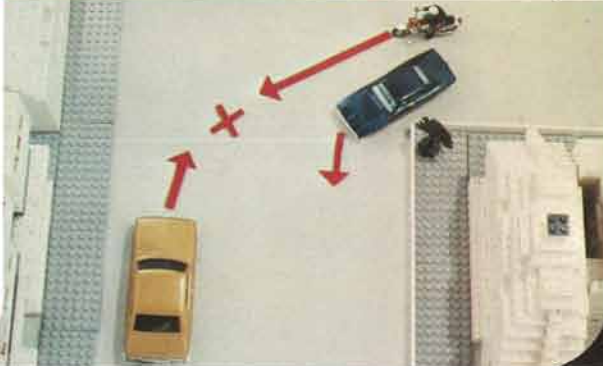
中央線から右側へはみ出して通行できるのは...



踏切の直前で停止し、安全を確認。



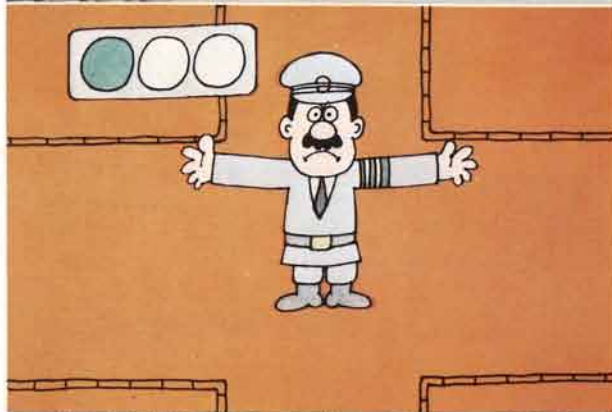
横断歩道の手前30メートル以内は追越禁止。



道路のまがりかど付近で追越しをすると...



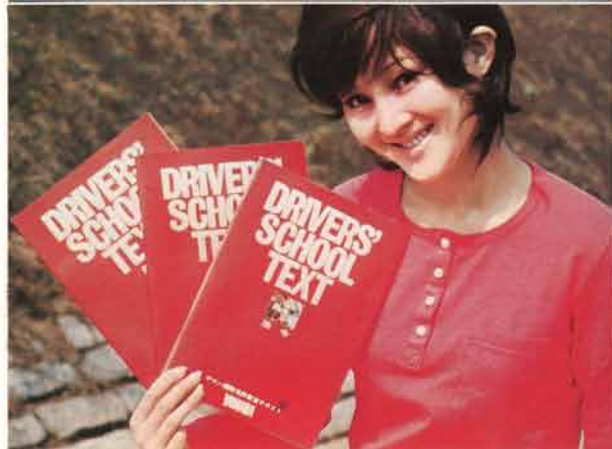
道路標識にご注目。一方通行路では…



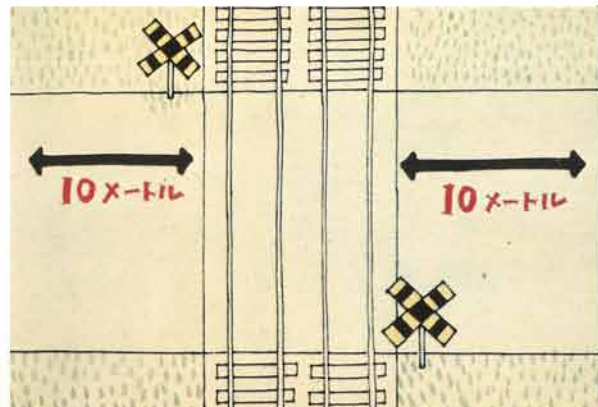
信号が青なのに、オマワリさんが通せんぼしてたら…



このおまわりさん、なにをしてるのでしょう



「しっかり勉強してくださいね」



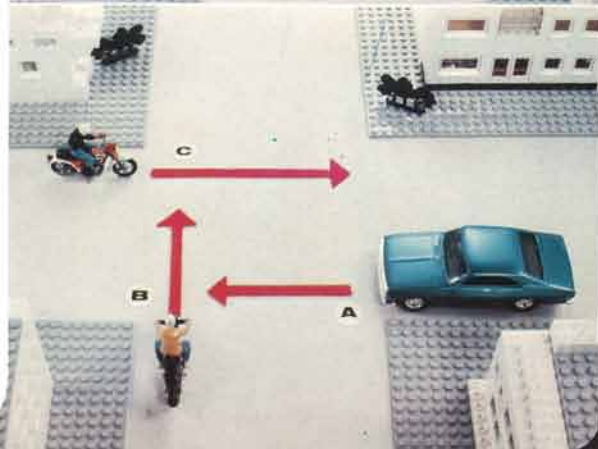
駐停車をしないといけない場所は…



警音器を鳴らす場所は…



緊急自動車が来たら、どうしますか？



どの車両が優先でしょうか

オート用品
アクセサリ



キットパーツと
チューニング



ロードレース界の先輩、三宅憲義
さんと愛息の桂一くんを迎えて、
金井征夫さん(右)と政夫さん(左)

こんにちは
ヤマハ
です



スポーツ・ムードの
あふれるお店

東京都三鷹市下連雀★★★★★
★★★★★西部輪業さん

ひと口にスポーツ店とい
っても、その営業方針には、
それぞれ個性があります。
ここに登場していただく、
東京都三鷹市の西部輪業さ
んも「オートバイはスポー
ツレジャーの振興によって
伸びる」ことを確信して、
ツーリングやモトクロスに、
お客さまとともに参加する
一方、巾広いヤング層を吸
収する包容力を持ったお店
です。



ヤングを中心の営業方針

ロードレース、モトクロスの一流ライダーのピンナップ写真や、サイン入りの色紙を、壁から天井まで張りつめた、ヤング好みの明るいお店——金井征夫さん（26才）政夫さん（24才）の兄弟が、お父さんに代って、盛り立ててきた、若いお客さまの集まる西部輪業です。

二年前、ここ三鷹市の繁華街に店舗を移すと同時に、営業方針もヤングに焦点を合わせたものになりました。

以前は、自転車や四輪車にも、かなりの比重をおいていましたが、将来、オートバイ中心の経営を行なっていくという信念にもとづいて、変革を図ったものです。

「自転車を主にすれば、自転車のよい客層がつくれるし、オートバイを主にすれば、オートバイのよい客層がつかれます。自転車がわるいというのではありませんが、大きいものを売って伸びていくという考えから、オートバイ中心に変えていったのです。それは時代に合わせてやり方が一番大切です」

金井さん兄弟がいうように「オートバイで経営を成り立たせていくためには、若いお客さまを絶対数つかむことが必要」です。

「若い人を相手にすることは、商売にとつて、良さもある反面、短所もあります。かりに、オートバイがレジャー化しなかつたら、四輪車に喰われていたでしょう」

その点、スポーツレジャー時代を積極的に築こうとするヤマハの姿勢と、金井さんの考え方には、一致するところが多いようです。

だれでも参加できるツーリング

金井さん兄弟は、お客さまと一体になって、積極的にスポーツ活動を展開しています。

一、二カ月に一回は、ツーリングやオートキャンピングに出掛けます。

それも、行事をお客さまに押付けるのではなく、つねにお客さまの間から「そろそろツ

ーリングに行こう」という声上がり、それから金井さんたちが、具体的な計画を練るわけです。

特定のグループに限らず、なるべく沢山のお客さまに参加してもらいたいと、ポスターなどで行事のPRを行なう一方、多数のお客さまに葉書を出して、ツーリングの予定を通知します。

この葉書は、お客さまと西部輪業さんとの結びつきを強める効果も果していることでしょう。

西部輪業さんを事務所、三鷹西部レーシングクラブがおかれ、MFJ、MCFJA主催のモトクロスレースに活発に出場しています。

レースは、あくまでもレジャーと割り切り、ムリをして出場しないのも、このクラブの特徴です。

「モトクロスやツーリングのクラブが、他のお客さまと遊離したものであつてはこまりません。ほかの人がとけ込めるようなもの。みんなの親交を深めるようなものであるよう、気を配っています」

スポーツ・ムートが店内に一杯

弟の政夫さんは、ロードレースに、モトクロスに、輝かしい戦歴を持っています。

こうした関係から、現役の一流ライダーとの友好もあつく、三室恵義選手、河崎裕之選

レースのピンナップ写真で
いっぱい店内。



ことしも元旦からツーリング



手、金谷秀夫選手など、そうそうたるメンバーが、西部輪業さんのシンボルマークを印刷したワッペンをレーサーのカウリングにつけて出走してくれます。

テレビのサンデースポーツで、これらのレースの模様を見たお客さまが、興奮した声で「今日は、ワッペンがよく、うつつていた！」と、電話で知らせてきたりします。

お客さまとしては、自分の車についているのと同じワッペンを張ったレーサーで、スターライダーが健闘している姿を見るのはうれしいことでしょう。

レース偏重はあくまでさける

有名ライダーが店を訪れたり、お客さまがモトクロスに出場したりすることは、お店の話題を豊富にし、スポーティーなムードを助長しますが、金井さん兄弟は、決してレースを偏重しているわけではありません。

「レースは、たしかに商品のイメージ・アップにつながります。また、モトクロッサーのチューニングアップをすることで店の技術力をお客さまに知ってもらえます。同時に、自分にとつても、非常に勉強になります。しかし、レースを商売にするのは大変なことです。あくまでもムードはムード。一般のお客さまを相手に商売させていただいているわけですから、モトクロッサーを店先きに展示するにも神経を使います。」

お客さまの個性を生かして

スポーツ的な雰囲気は、西部輪業さんの貴重な持ち味ですが、それにおぼれる金井さんではないのです。

きれいで、お客さまが入りやすい店づくり
に金井さん兄弟は努力してきました。

商品と同時に人間性を売ること。

お客さまそれぞれの個性を生かすことを考えて接すること。

それが、お客さまを魅きつける要因でもあるようです。

三鷹西部レーシングのメカニックとして



総合優勝！ しかも新記録の周回数。2サイクル 250ccのマシンが果たしたこの快挙に、観客も、ライバルも、関係者も、みなひとしく拍手をおくった。疾駆する高井幾次郎選手。



「ソラーッ！ピットインだ、ガス補給、ライダー交代(大脇俊夫選手)、マシン異常なし！」



午後6時、サーキットに灯がともる、あと2時間。DX250はますます快調、ピットサインもバッチリOK。

新記録

★★★★★ DX "10時間耐久" を制す!! ★★★★★

夏のロードレースの祭典“10時間耐久レース”は、MFJ全日本選手権第4戦として8月8日、猛暑の鈴鹿サーキットで行なわれた。

ノービス90ccクラスからセニア251cc以上クラスまで8クラスに、2人1組で73チームが参加、1周6キロを10時間という長丁場にライダーとマシンの耐久力を競い合った。

午前10時、予選でヤマハRX350を駆って最高ラップをマークしたスポーツライダーの金谷秀夫選手を先頭に、ル・マン式スタートで10時間にわたる熱戦の火ぶたを切った。

750cc、500ccというなみいる大排気量マシンを尻目に、序盤は金谷選手と河崎裕之選手のRX350が、耐久レースとは思えぬハイラップで快走をつづけた。

レースも中盤を迎え、水銀柱もうなぎ登りの午後2時頃からはビットインするマシンも続出、金谷、河崎組もガス補給、ライダー交代と大わらわ、この頃から着実にトップグループにつけていたヤマハDX250の高井幾次郎、大脇俊夫組（プレイメイトレーシング）がトップにおどり出た。

マシントラブルの相次ぐ中で、大脇・高井組のDXは、好調そのもの。ノントラブルで終盤に入り、夜になっても快走につぐ快走、ついに10時間46秒1で209周という新記録を樹立、250ccながらこの苛酷なレースに、ビッグマシンを押えて優勝という快挙をなしとげ、いまさらながらにヤマハスポーツの高性能と、みことな耐久性を実証してみせた。



長かった戦いを終えて表彰台に立つ、左から優勝の高井・大脇、3位入賞の河崎、金谷の各選手。





「いざ焼岳へ！」左から野村、玉舎、道上のトレールガイ3君とHT1。



第一の難関は、身の丈はしおぬる雑草の林。草をなを倒してしゃじむに墜る。

マル グ ン デ ン ト ル

HT1北アルプスへアタック

四台のHT1改造型トレールで、その名も知られた北アルプスの焼岳に挑戦したたくましくトレールガイがいます。

この猛烈なトレールランを実施したのはヤマハフレンド店・都竹自転車店さん（岐阜県吉城郡古川町）の古川トレールクラブで、お店の主人・都竹淳巳さんをリーダーに、お客さまの野村博司さん、玉舎一男さん、道上博さんの四人。オートバイのライディングはもとより、登山のテクニックもベテランという方々です。

計画では、標高二七五四メートルの双六岳が目標でしたが、折あしく豪雨に見舞われて

いよいよ登りも険しくなって、一台一台押し上げとなる。雑草の林でも、沢でも、こんな崖でもHTTでよかった！と思うところばかり。



ついに中間地点の白水の滝に到達。この下は目もくらむような絶壁。よくも登ってきたと思う。しかし、今回は悪天候のため、山頂まで一キロの地点でアタックを断念、勇気ある下山にふみきった。



雨で流れを増した沢を一気に渡る。滑りやすい要注意の場所だ。



途中で断念、広い山頂で、愛車HTTと共に穂高、槍ヶ岳など、北アの秀峰を眺望することはできませんでした。
そこで計画変更、行程の短かい焼岳（二四五メートル）へとハンドルを向け、ここでも雨の中、滑っては登り、登っては押上げ、頂上まであと一キロとせまったのですが、雨足ますますつよく、勇気ある下山にふみきったものでした。

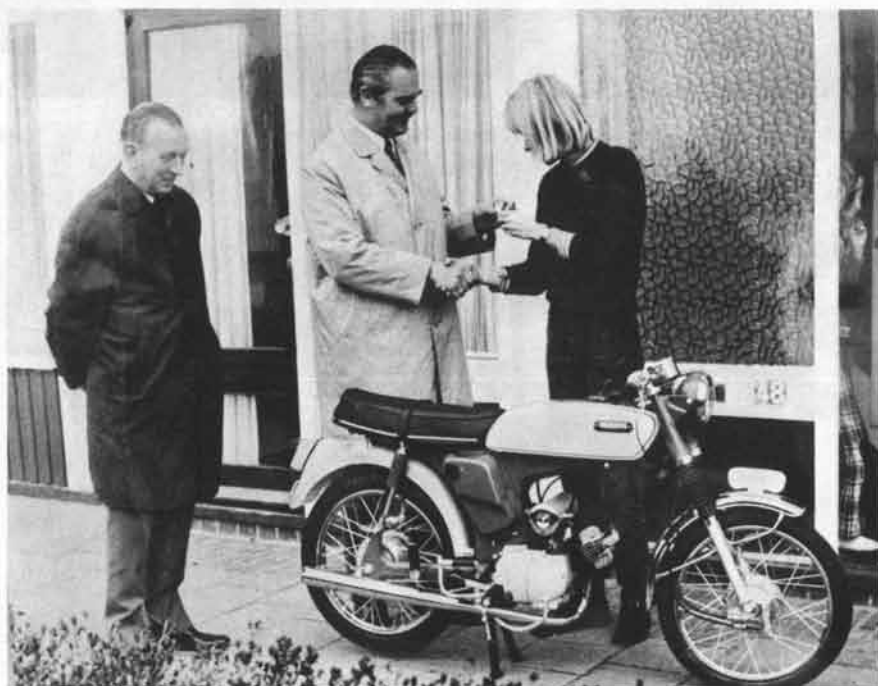
都竹リーダーの話「アタックにHTTを用いたのは、車重が軽く、パワーがあるからです。秋には再び双六岳に挑戦し、北アの山頂に立つヤマハトレールの雄姿をお目にかかるつもりですが、山岳トレイルランに際してはメカにつよく、山登りの経験がある人を加えること。またロープや工具などを完備し、天候には細心の注意を払って行動することが大切です。時間をたっぷりとり、けっしてあせらず、危険を予知した場合はすぐに引返す勇気をもつこと、これも大切です。」

トレール熱ホットティングアップ



ロードレース同様、トレールライディングも現在マレーシアのファンの間で急速に人気を高めています
 現地ヤマハ代理店も積極的にこの傾向をものり立てて、さかんにトレール・デモンストレーション

ーションを催しています。
 写真はシンガポールからデモンストレーションに参加するためにやってきたファンの一行です。クアラ・ルンブールのヤマハ代理店前で。



人気の中心 FS1P

オランダでは特に五〇cc級のスクーターバイクの人気が高いようですが、なかでもヤマハFS1Pの人気は絶対的です。
 オランダの代理店エット・モートルパレス社では、最近ある慈善団体が行なったロッタリーの賞品としてFS1P一台を寄贈しましたが、写真は同社のセールスマネージャーからこの賞品をうけるロッタリー当選者。
 好みにぴったりの五〇ccFS1Pをもらって、彼は大満足の様子です。

モトクロス王者を招いて **SL** クラブ

ボウリング大会開く！

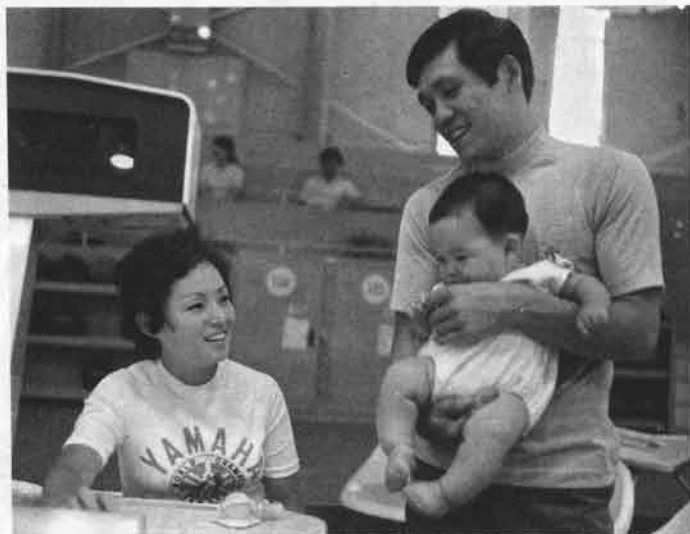


ストライクのスカットとした気分です。暑さを吹き飛ばそうと、ヤマハSL会関東地方本部では、東京品川のスポートセンターでボウリング大会を開きました。

これに先だって、この日の招待客でモトクロスの王者、鈴木忠男選手のチャリティーサイン会が行なわれ、その収益七千円は交通遣児におくることに決定しました。

このあと参加者88名が、23レーンに分かれてその腕を競いました。

鈴木選手は、すみ子夫人と長女のちかちゃんをともなってレーンに現われ、SL会員と一緒にボウリングを楽しみました。鈴木選手はオートバイよりむつかしいと連発しながらも一三〇点をマーク、さすがにカンのいいところを見せていました。



お巡りさんも安全運転教室



町内のパトロールや連絡用、あるいは通勤の足として、オートバイに乗車しているお巡りさんは少なくありません。そこで、お巡りさんを対象とした安全運転教室がひらかれました。

この講習をうけたのは静岡県警・清水警察署の五十四名のお巡りさんで、講師はヤマハ交通安全教室の岡部一級インストラクター。とかくお巡りさんの行動は、何事も模範的であらねばならないとあって、講習をうける姿は真剣そのもの。各部の点検、軽整備を終わって、愛車を駆っての安全運転の講習は大きな成果をあげたものです。

なおこの企画は町野署長の発案で、今後も機会あるごとに実施していくとのこと。



さらに大きく発展を!

関東地区SLリーダー会議開く



SLスポーツツレジャーの季節もたけなわの7月17日、SLクラブ関東地方本部では、東京都港区の機械振興会館に、SLリーダー80名を集め、SLリーダー会議を開催しました。これは、もっか各地で盛大に行なわれているSL活動を、より楽しく、より円滑に行なうために、関東各地からSLリーダーが集結したものです。

大月インストラクターの、実際的なSL行事へのアドバイスを中心に、研修は、時間の立つのを忘れさすほど熱心に続けられました。こうした、SLリーダーの、シビアな姿勢は、さらに楽しいSL活動にしっかりと直結していくことでしよう。

ヤマハサービスコーナー

セールスの方、サービスの方、そして事務の方、お店のみなさんで
ご覧ください。お客さまをお迎えしたときの“話のタネ”に絶好です。

●新しくなった定期点検制度

ヤマハ車の定期点検制度が改訂されました。新しいヤマハの定期点検は、125ccを越える自家用自動車の所有者に対して法律で義務づけられている6ヵ月毎、12ヵ月毎の定期点検を考慮して、これにヤマハ車をより安全に正しく経済的に乗っていただくための項目を加えて構成されています。お客さまはもとよりお店のみなさまにとって、よりサービスしやすい構成です。これを機会に定期点検を文字どおり定期的に、確実に実施するようよろしくお願いいたします。

なお、点検時期と点検料金は次のとおりです。(ただし以下の料金は点検のみです。調整や部品交換、分解整備、オイル代は含んでいませんので、

別に追加請求となります)

点検時期	125cc 以下	軽二・自二
1ヵ月(500km)	無 料	無 料
6ヵ月目	1,000円	2,000円
1年目	1,500円	2,500円
1年6ヵ月	1,000円	2,000円
2年目	1,500円	2,500円

以下6ヵ月ごとに、6ヵ月点検、12ヵ月点検が繰返えされ、その内容は6ヵ月は6ヵ月点検、12ヵ月は1年目と同じになります。

●定期点検と定期交換部品

	1ヵ月 500km	6ヵ月毎	12ヵ月毎
かじとり装置			
ハンドルのゆるみ、ガタ	○	○	○
ハンドルの操作具合	○	○	○
ステアリングヘッドのガタ	○	○	○
ホイールアライメント			○
かじとり車輪の左右回転角度			○
フロントフォークの取付け状態、曲り、損傷		○	○
制動装置			
前後ブレーキの遊び、きき具合	○	○	○
ブレーキロッド、ワイヤー類のゆるみ、ガタ、損傷	○	○	○
ブレーキカムの摩耗			○
ブレーキシュープレート取付けのゆるみ、損傷	○	○	○
ドラムとライニングとのすき間		○	○
シューの摺動部分およびライニングの摩耗			○
ドラムの摩耗、損傷			○
走行装置			
前後車軸ナットのゆるみ、割ビンの取付け状態	○	○	○
タイヤの空気圧	○	○	○
タイヤの亀裂、損傷	○	○	○
タイヤの溝の深さおよび異状な摩耗	○	○	○
タイヤの金属片、石その他の異物	○	○	○
リムおよびハブの変形、損傷、スポークの他み	○	○	○
ホイールベアリングのガタ		○	○
駆動装置			
フロントリヤクッションスプリングの損傷		○	○
フロント、リヤクッションスプリングの左右たわみの不同			○
フロント、リヤクッション取付け部の弛み、ガタ、損傷		○	○
スイングアームピボットシャフトの損傷、ナットの弛み		○	○
スイングアームピボット部のガタ			○
フロントリヤクッションの油洩れ、損傷、作動			○
動力伝達装置			
クラッチの遊び、作用	○	○	○
トランスミッションのオイル洩れ		○	○
トランスミッションの操作機構のガタ		○	○
ドライブチェーンのゆるみ、伸び	○	○	○
スプロケットの取付け状態、摩耗			○

	1ヵ月 500km	6ヵ月毎	12ヵ月毎
電気装置			
点検時期、ポイント間隙、接点面の荒れ	○	○	○
邊角装置の機能点検			○
スパークプラグの電極の状態	○	○	○
充電作用			○
バッテリー液量		○	○
バッテリー液の比重			○
電気配線の接続部のゆるみ、損傷		○	○
エンジン			
エンジンのかかり具合および異音	○	○	○
低速および加速の状態	○	○	○
排気の状態		○	○
エアクリナーエレメントの状態		○	○
圧縮圧力			○
オイルタンク及び配管のオイルもれ		○	○
オイルポンプの作用	○	○	○
オイルタンクストレーナーのつまり			○
オートループオイルの残量		○	○
燃料装置			
ガソリンもれ		○	○
キャブレター各部の汚れ、つまり		○	○
キャブレターリンク機構の状態		○	○
キャブレタースロットルバルブ及びスターターブランチの状態		○	○
キャブレターのフロートレベルの状態		○	○
キャブレター調整の状態		○	○
フューエルコックストレーナーのつまり			○
その他			
灯火装置の作用、汚れ、損傷		○	○
ホーン、フラッシュャーの作用		○	○
バックミラーの写影状態		○	○
メーターの作用		○	○
マフラーエキゾーストパイプの取付けゆるみ、損傷		○	○
マフラーの機能			○
シャシーの亀裂、損傷		○	○
シャシー各部の給油状態		○	○
ピストン、シリンダーヘッドのカーボン堆積		○	○
給油類			
トランスミッションオイル交換	○	○	○
ドライブチェーン		○	○
各ワイヤー類		○	○
ブレーキカム、リヤアーム軸、ブレーキペダル軸、メーターユニット		○	○
定期交換部品			
ブレーキワイヤー交換			2年毎
燃料パイプ交換			4年毎

◆定期点検の記録を残す——定期点検を実施しましたら、お客さまへは取扱説明書後半にある定期点検カードに点検項目のチェックを記入し、さらに点検整備作業の概要を定期点検カード最終ページの定期点検記録簿に記入することを忘れないでください。

ヤマハらくらくイス プレゼントセール

★★★★★★★★★★★★★★
うけてます!!
★★★★★★★★★★★★★★

らくらくメイトにらくらくイスがついてお客様に好評の「らくらくイスプレゼントセール」は、いよいよ今月末で終了です。期間いっぱい、おいにご拡売ください。



噂は真実
NEW! TRAIL 新発売



未来のパワーを生む エンジン・メカ
7ポート+ピストンリードバルブ

NEW
ヤマハトレール

お客さまを
お店へひきつけるPOP

噂は真実!

世界にトレール時代を築きあげたヤマハトレール いま 新しいエンジンをのせて新発売

7ポート+ピストンリードバルブ（トルクインダクション）のニュー・メカで 実力をさらに大きくひきあげての登場です RT360 DT250 AT125 HT90のニュートレールが注目されています。



POPとは、point of purchase advertising の略で、購買時点広告のことです。つまり広告商品が消費者によって最終的に購入される場、すなわちお店の外や中、その周囲におく広告物のことです。（このPOPはスポーツ店へ配布したものです）